

# AEM1-D

## データ処理ソフト

### 取扱説明書

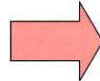
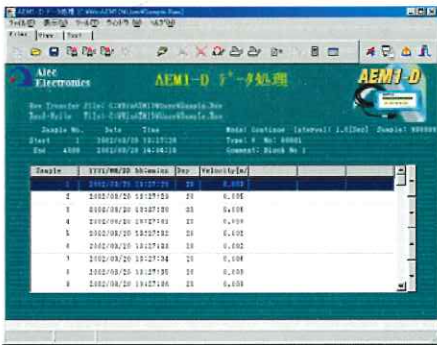
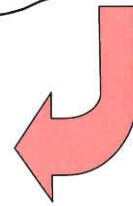


JFE アドバンテック 株式会社

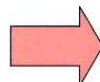
# ソフトウェア構成



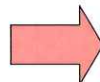
000.RAW  
データファイル



WinAEM1D Pro<sup>®</sup> のプログラム  
1,086,000データ読み込み可能



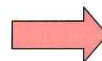
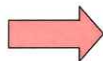
WinAEM1D スタックード<sup>®</sup> のプログラム  
261,000データ読み込み可能



WinAEM1D Lite<sup>®</sup> のプログラム  
101,000データまで読み込み可能

※ Average ファイルを読み込む場合は WinAEM1D Lite プログラムの方が適していると思いますが、使用するデータが 101,000 以上必要な場合は WinAEM1D (スタックード) をご使用下さい。

000.RAW  
データファイル



000 Ave.RAW  
平均ファイル

## 第一章 AEM1-D データ通信

AEM1-D データ通信.....	3
-------------------	---

## 第二章 インストールとアンインストール

・インストールする.....	11
☆OLE登録について.....	14
・アンインストールする.....	15

## 第三章 起動と終了

・WinAEM1D for Windowsを起動する.....	17
・WinAEM1D for Windowsを終了する.....	17

## 第四章 各機能の説明

ファイルメニューの説明.....	19	ヘッダーを表示する.....	24
表示メニューの説明.....	19	グラフの表示.....	24
Toolメニューの説明.....	19	グラフ説明.....	25
データ処理画面の説明.....	20	ツールバーを表示する.....	26
ファイル関係の処理.....	21	パラメータを設定する.....	26
ダイアログボックスの使い方.....	21	その他の設定をする.....	28
直前に編集したファイルを開く.....	21	N Valueの表示 (Option).....	29
ファイル名をつけて保存する.....	21	Sheet機能の有効 (Option).....	29
CSV形式で保存する.....	22	データ表示の最大行数.....	29
テキスト形式で保存する.....	22	ハードコピーをとる.....	30
ファイルを閉じる.....	22	システムの設定をする.....	30
データ転送プログラムを起動する.....	23	すべてをアイコン化する.....	30
データを廃棄する.....	23	元のサイズに戻す.....	30
データを復元する.....	23	表計算と連結させる.....	30
フォントの設定.....	23	目次項目をキーワードで検索する.....	31
プリンタの設定.....	23	ヘルプの使い方.....	31
データを印刷する.....	24	ヘルプを見る.....	31
終了する.....	24	高速操作設定.....	31
		AEM1-Dデータ平均処理プログラム.....	32

## 第一章 AEM1-D データ通信



ここでは測器のデータ通信の手順及び、データ通信プログラムの各機能の説明をします。



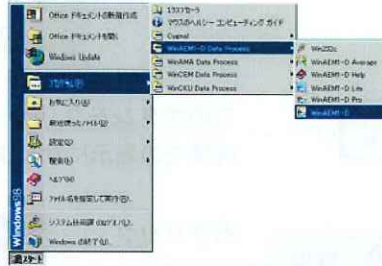
## データ通信作業手順

### 1. 通信ケーブルの接続

通信ケーブルの9ピンコネクタをパソコンのシリアルポートに、4ピンコネクタを本体に接続します。

### 2. プログラムの起動 (パソコン操作)

タスクバーのスタートメニュー「プログラム」より WinAEM1D Data Process をポイントし「WinAEM1D」又は「WinAEM1D Lite」又は「WinAEM1DPro」をクリックします。



### 3. データ通信プログラムの起動

「AEM1-Dデータ処理プログラム」が起動されたら  をクリックしてデータ通信プログラムを起動します。

ここでMODEをMemoryかReal Timeのどちらかにチェックを入れてください。

Memory: 現在まで測定したデータをパソコンに収録します。

Real Time: 現在の瞬間値をパソコンに収録します。

#### 参照

本体側で **MODE**     **ENTER**  
 **ENTER** と押して  
 通信モードにする。  
 「ツウシンチュウ」と出ればOK。

※Real TIME MODEを使用したときは、必ず **Exit Comm** ボタンをクリックして通信モードを終了させて下さい。

**MODE** キーを押して通信モードを終了した場合、ゼロ点が変わることがあります。

もし **MODE** キーを押してゼロ点が変わってしまったら、再度本体側で **MODE** **ENTER** と押してゼロ点を補正して下さい。

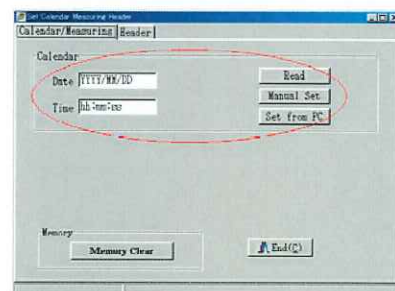


使用しているRS-232Cの通信ポートの番号を選択しておいてください。

### 4. 「設定」ボタンを押して下さい。

Calendar / Measuring タブをクリックします。

・カレンダーを確認, 設定することが出来ます。



Read

..... このボタンをクリックすると測器が持っているカレンダーを通信して読み込みます。

Manual Set

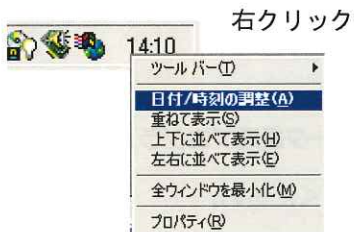
..... カレンダー設定の欄に手入力で日付・時間を指定し、このボタンをクリックすると指定されたカレンダーを設定します。

Date

Time

Set from PC

..... このボタンをクリックすると、ご使用中のPCの時刻が摘要されます。この時は24時間での表示になります。

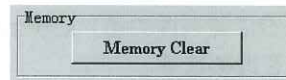


右クリック



### ・(メモリのクリア)

これは、現在保持している、AEM1-Dのデータをクリアにする為のボタンです。



まず、通信プログラムのModeをMemoryにチェックを入れます。「設定」をクリックし、Memory Clear ボタンを押します。

「メモリクリアの確認」としてたずねてきますので、全て消去する時は、CLEAR（小文字可）と入力して下さい。

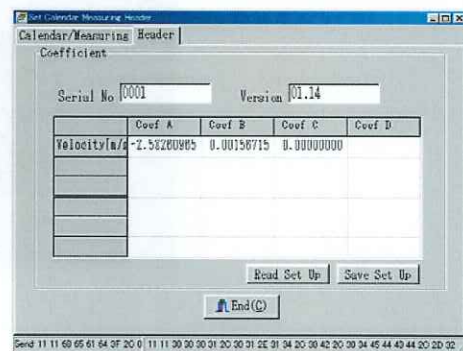
**必ず、メモリー内のデータ処理を行ってから、クリアを実行して下さい。クリアされたデータの復元は不可能です。**

**メモリークリアの進行状況は、本体LCDで確認できます。**

### ・Header タブをクリックします。

Read Set Up を押すことで、現在本体に書かれてある検定定数を読み込みます。

検定定数を変更する場合、表示されてある定数を変更し、Save Set Up ボタンを押して下さい。



END をクリックして下さい。 

### 5. 「ヘッダ読込」ボタンを押して下さい。

このボタンを押すことで、本体に書き込まれてある、定数等の情報がパソコンに転送され、測定間隔、が自動的に設定されます。

測器番号、測定開始時刻、測定終了時刻、定数検定日は、本体より転送されます。この項目は、参照用として認識して下さい。しかし、このボタンを押さなければ、次の処理へは進めません。

### 6. 「データ受信」ボタンを押して下さい。

Modeが、Memoryであれば、本体に記録されているデータをパソコンに転送します。

Modeが、Real Timeであれば、現在の瞬間値をReal Timeでグラフ表示させます。

8. 「グラフ設定」ボタンを押して下さい。

・グラフ設定タブをクリックします。各項目の、グラフの最大、最小値、y軸の間隔、グラフ線の太さを設定できます。(欠測データに零を埋める)にチェックすると本体から転送されてくるデータが何らかの原因で欠測した場合、零を埋めます。



・グラフ色設定

各項目のグラフの色を設定できます。





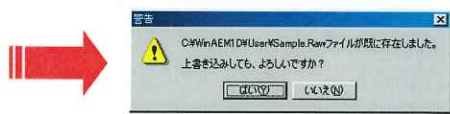
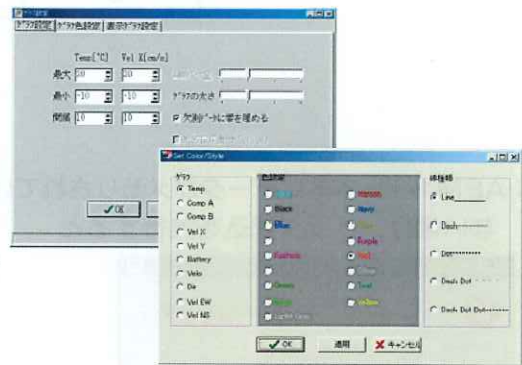
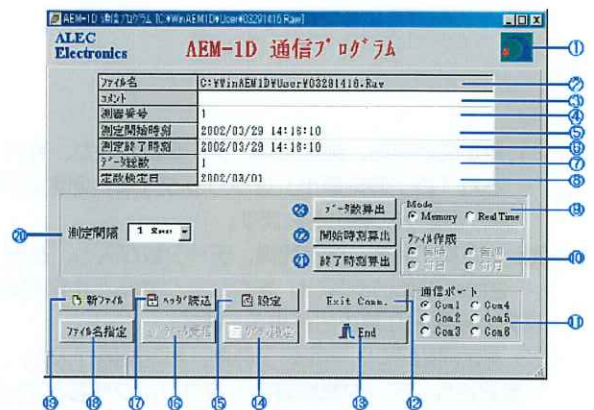
## ソフトの機能

このプログラムでは、測定器内のICメモリに収録されたデータをインターフェイスユニットまたはReal TimeによりRS232Cのフォーマットで外部コンピュータへ転送させるソフトです。

## 画面の説明 (図1)

1. バージョン情報が表示されます。
  2. ファイル名が表示されます。
  3. コメントを入力することができます。
  4. 測器番号を入力することができます。
  5. 測器開始時刻を入力するか算出させ表示することができます。
  6. 測定終了時刻を入力するか算出させ表示することができます。
  7. データ総数が表示されます。
  8. 定数検定日を入力することができます。  
次回転送時には、前回入力した定数検定日の定数で計算され変更がない限り再度入力は不要です。
- 注: 転送されたデータと定数検定日はリンクされていますのでDate項目に検定日を必ず入力して下さい。正しく入力されていない場合、出力データが正確に計算されません**
9. Mode (Memory・RealTime) の設定ができます。
  10. ファイル作成 (毎時、毎週、毎日、毎月) の設定をすることができます。
  11. 通信ポート Com1 ~ Com6 の設定をすることができます。
  12. Exit Comm: AEM1-D 本体の通信モードを終了させます。  
**※ Real TIME MODE を使用したときは必ずこのボタンで通信モードを終了させて下さい。**
  13. データ通信プログラムを終了します。
  14. グラフ設定をすることができます。  
最大最小: 流速の最大最小値を設定できます。  
間隔: グラフの縦軸単位の表示間隔  
グラフの太さ: グラフの線の太さを設定します。  
欠測データの零を埋める: データ欠測時にデータを0にする。  
グラフの色設定: グラフの色や線の種類を設定することができます。
  15. AEM1-D が持っているカレンダーを確認、設定することができます。
  16. データ受信を開始します。
  17. ヘッダを読み込みます。
  18. [ファイル名指定] をクリックするとダイアログボックスが出ます。ファイル名を変更したい場合は、ファイル名 (N) にダイレクトに文字などを入力し、ファイル名を付けることができます。  
ただし、同じファイル名で保存しようとするすると警告が出ます。この場合、上書きしてもいい場合は「はい」をクリックし、ファイル名を変更する場合は、「いいえ」をクリックして下さい。

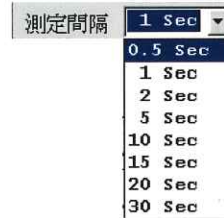
図 1



※Real Timeモードのみファイル名指定できます。Memory転送モードの時は、ファイル名は自動的に作成されます。

(前ページ図 1 のつづき...)

- 19. [新ファイル] をクリックした時間をファイル名として新しいデータファイルを作ります。(例11201017. Raw は 11 月 20 日 10 時 17 分をあらわしています。)
- 20. 測定間隔を設定することができます。



- 21. 測定開始時刻、測定間隔、データ数が入力、選択され「終了時刻算出」をクリックすると測定終了時刻が自動的に算出されます。
- 22. 測定終了時刻、測定間隔、データ数が入力、選択され「開始時刻算出」をクリックすると測定開始時刻が自動的に算出され表示します
- 23. 測定開始時刻、測定終了時刻、測定間隔が入力、選択され「データ総数算出」をクリックするとデータ数が自動算出され表示します。

21,22,23 ボタンの使い方

測定開始時刻 (入力)	測定終了時刻 (入力)	データ数 (入力)	測定間隔 (選択)	使用ボタ (クリック)
○	○		○	データ数算出
	○	○	○	開始時刻算出
○		○	○	終了時刻算出

\*測定間隔は、設定しておいて下さい。

注：AEM1-D 本体にデータがメモリされていない場合、ヘッダ読込を実行すると



が表示されます。

## 第二章 インストールとアンインストール

- ・インストールする
- ・OLE 登録について (Regist.bat)
- ・アンインストールする

## ・インストールする

インストーラを使ってWinAEM1D for Windowsをインストールします。ここでは、ハードディスクをCドライブ、CD-ROMをDドライブとして説明しています。お使いになるドライブに合わせて読み替えて下さい。（例えばNECの場合、ハードディスクはAドライブ、CD-ROMドライブはQドライブになります。）

ここではCD-ROM版のインストール方法を説明します。FD版の場合は、インストールの途中でフロッピーディスクを入れ替えるようにメッセージが表示されます。メッセージにしたがってインストールを進めて下さい。

1. 実行中のプログラムをすべて終了します。

2. タスクバーの【スタート】ボタンをクリックします。

3. 【設定 (S)】をポイントして、【コントロールパネル (C)】をクリックします。(図1)

4.  をダブルクリックします。

5. 【セットアップと削除】の中の【セットアップ (I)】ボタンをクリックします。

6. WinAEM1D for WindowsのCD-ROMをCD-ROMドライブにセットして、「次へ>」ボタンをクリックします。(図2)

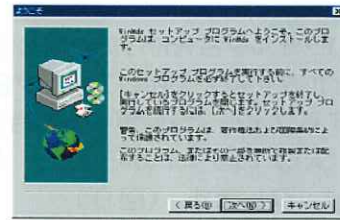
7. 「セットアッププログラムのコマンドライン (C):」テキストボックスにD:¥SETUP.EXEと入力し、「完了」ボタンをクリックします。(図3)





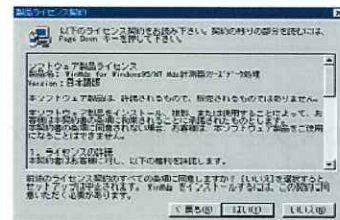
8. 画面のメッセージを確認し、「次へ (N)>」ボタンをクリックします。(図 4)

図 4



9. 画面のメッセージを確認し、「はい (Y)」ボタンをクリックします。(図 5)

図 5



10. 画面のメッセージを確認したら「次へ (N)>」ボタンをクリックします。(図 6)

図 6



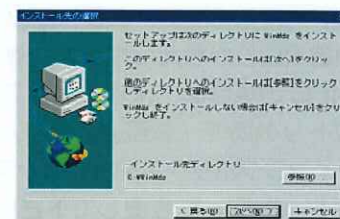
11. ユーザ名、会社名を入力し、「次へ (N)>」ボタンをクリックします。(図 7)

図 7



12. インストール先を指定します。表示されたディレクトリ名にインストールする場合は【次へ (N)>】ボタンをクリックします。ディレクトリ名を変更する場合は【参照(R)...】ボタンをクリックして、インストール先を指定します。(図 8)

図 8





13. 新しいフォルダ名を付けたい場合は、【プログラムフォルダ (P)】の所にフォルダ名を入力し、既存するフォルダを使用する場合は、【既存フォルダ (X)】のリストから選択し【次へ】ボタンをクリックします。(図9)



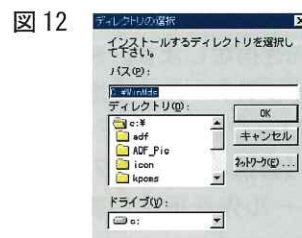
14. 画面のメッセージを確認し、【次へ】ボタンをクリックします。(図10)



15. インストールが終了すると、プログラムの WinAEM1D for Windowsのアイコンが表示されます。(図11)



12. インストール先の所で、エラーが出た場合ドライブ先の選択誤りが考えられます。例えばPCの機種がNECの場合は、まず、インストール先のディレクトリの所で「参照」をクリックしディレクトリダイアログボックスをだしインストール先のドライブをcからaに変更して下さい。(図12)



## ☆ OLE 登録について

### ・ 概要

Windows プログラムあるいはデータ転送プログラムを実行する前に、必ずシステム環境に Regist（登録）する必要があります。更に、Windows95 と WindowsNT の両 OS が一つのコンピューターにインストールされている場合は、それぞれの環境に登録する必要があります。本来、この登録作業はインストールする際にセットアッププログラムが自動的に行いますが、万一登録が正常に行われていない場合は（図 1）のようなエラーメッセージが表示されますので手で登録を行う必要があります。この場合は、下記の手順に従って操作して下さい

図 1



### 1. NEC パソコンの場合（図 2）

スタートメニューから MSDOS プロンプトを起動して下さい。

A:¥WINDOWS> が表示されたら CD.. を入力して下さい。

CD WINAEM1D を入力して下さい。

REGISTNEC を入力して下さい。

Registering OLE Component:

PDQCommv3.2J...

Task completed という表示が出るまでお待ち下さい

EXIT を入力して Windows に戻します。

電源を OFF にして、パソコンを再起動して下さい。

図 2



### 2. DOS/V の場合（図 3）

エクスプローラを起動させます。

プログラム格納パテーション内の、: ¥

WINAEM1D¥REGISTDOSV.BAT をダブルクリックします。DOS プロンプト画面が表示され、TaskCompleted の表示を確認してから全てのプログラムを終了させて下さい。パソコンを再起動して下さい。

図 3



3. 注:Windows のフォルダが WINDOWS または WINNT 以外であれば下記の手順で登録して下さい。

スタートメニューから MSDOS プロンプトを起動して下さい。

A:¥WINDOWS> が表示されたら CD.. を入力して下さい。WINAEM1D を入力して下さい REGIST2 を入力して下さい。

案内通りに入力して下さい。つまり、Regist2\*\*\*\*\* を入力して下さい。\*\*\*\*\* は、ドライブ名及びフォルダ名を入力して下さい。(例えば Regist2C:WINNT32)

EXIT を入力して Windows に戻します。

電源を OFF にして、パソコンを再起動して下さい。

図 4



## ・アンインストールする

1. タスクバーの【スタート】ボタンをクリックします。

2. 【設定 (S)】をポイントして、【コントロールパネル (C)】をクリックします。

3.  をダブルクリックします。

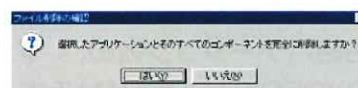
4. 【セットアップと削除】の WinAEM1D for Windows を選択し、【追加と削除 (R)...】ボタンをクリックします。

図 1



5. 確認のメッセージが表示されますので、削除する場合は【はい (Y)】をクリックします。

図 2



6. 「アンインストールが完了しました」のメッセージが表示されますので確認したら【はい (Y)】ボタンをクリックします。

## 第三章 起動と終了

- WinAEM1D for Windows を起動する
- WinAEM1D for Windows を終了する

## ・WinAEM1D for Windows を起動する

1. タスクバーの【スタート】ボタンをクリックします。


2. 【プログラム (P)】をポイントして、さらに【WinAEM1D Data Process】をポイントし、【WinAEM1D】をクリックします。(図1)

(図1)



3. WinAEM1D for Windowsが起動します。

## ・WinAEM1D for Windows を終了する

WinAEM1D for Windowsを終了するには、【ファイル (F)】メニューの【終了 (X)】を選びます。 をクリックしても終了できます。



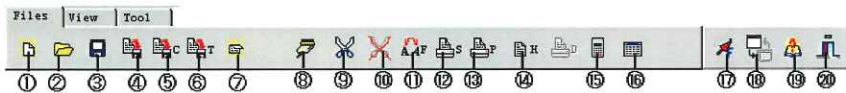
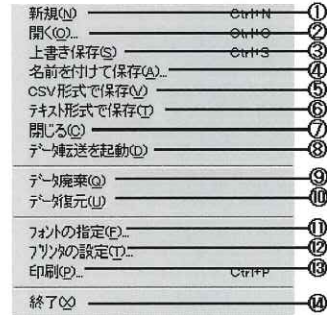


## 第四章 各機能の説明

ここではWinAEM1D for Windowsの各機能の説明をします。

<ファイルメニュー - の説明>

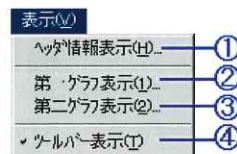
- ①新規ファイルを開く
- ②既存のファイルを開く
- ③既存ファイルに上書き保存する
- ④ファイルに名前を付けて保存する
- ⑤CSV形式で保存する
- ⑥テキスト形式で保存する
- ⑦ファイルを閉じる
- ⑧データ転送プログラムを起動する
- ⑨データを廃棄する
- ⑩廃棄したデータを復元する
- ⑪フォントの指定をする
- ⑫プリンタの設定をする
- ⑬データを印刷する
- ⑭WinAEM1Dを終了する



- ①新規ファイルを開く
- ②ファイルを開く
- ③作業中のファイルを保存する
- ④ファイル名を付けて保存する
- ⑤CSV形式で保存する
- ⑥テキスト形式で保存する
- ⑦ファイルを閉じる
- ⑧データ転送を起動する
- ⑨データを廃棄する
- ⑩データを復元する
- ⑪フォントの設定をする
- ⑫プリンタの設定をする
- ⑬データを印刷する
- ⑭ヘッダを表示する
- ⑮係数を設定する
- ⑯書き込みファイルを設定する
- ⑰定高速操作設定をする
- ⑱表計算と連結させる
- ⑲ヘルプをみる
- ⑳終了する

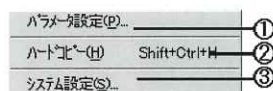
<表示メニュー - の説明>

- ①ヘッダ情報を表示する
- ②第一グラフ表示
- ③第二グラフ表示
- ④ツールバーを表示する



<Toolメニュー - の説明>

- ①パラメータを設定する (AD 係数、書込ファイル)
- ②ハードコピーをとる (画面のコピー)
- ③システム設定をする (一般項目)



<データ処理画面の説明>図 1

①プログラムのコントロールメニューボタン  
WinAEM1D for Windowsを最小化したり、終了する時に使います。

②メニューバー  
ここに表示されている【ファイル (F)】などをメニューと呼び、クリックするとメニューがプルダウンしてコマンドの一覧が表示されます。

③タイトルバー  
ここでは、プログラムのタイトル「AEM1-Dデータ処理」が表示されます。また、編集中ファイルを最大表示している場合は、プログラムタイトルに続いて編集対象（加括弧付き）のファイル名が表示されます。

④ウィンドウをアイコン化  
WinAEM1D for Windowsをアイコン化します。

⑤ウィンドウを最大化  
WinAEM1D for Windowsを最大化にします。

⑥ウィンドウを閉じる  
WinAEM1D for Windowsを終了します。

⑦アレックマークをクリックするとバージョン情報が開きます。

⑧ AEM1-D マーク（絵）をクリックするとAEM1-Dの絵が開きます。

⑨データ上で右クリックするとショートカットメニューを表示します。カーソルを任意の行にあわせクリックすると高速移動ができます。また測定間隔の設定やN value 10, 16進表示の切り替えができます。（図 2）

図 1

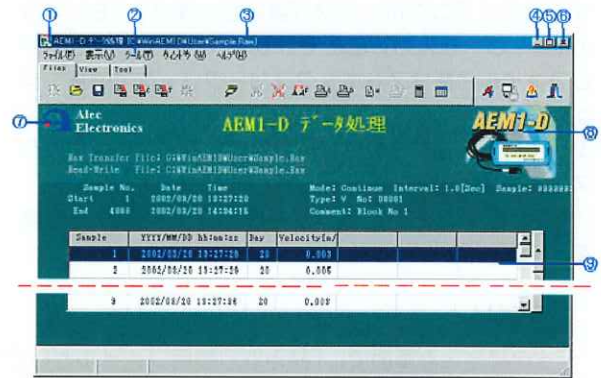
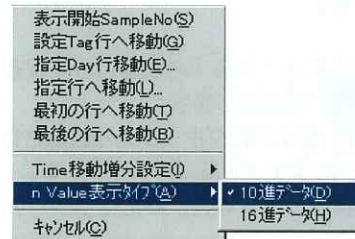



図 2



## ＜ファイル関係の処理＞

### ダイアログボックスの使い方

1. 【ファイル (F)】メニューの【新規作成 (N)】を選択すると新しいシートが出ます。(もしくは、(Ctrl+N)を入力) このシートデータを貼り付けていきます。最大10データまで登録できます。ツールバーの  をクリックしても新規シートが出ます。(オフショツ)


2. 【ファイル (F)】メニューの【開く (O)】を選択するとダイアログボックスが表示されます。(もしくは (Ctrl+O) を入力) ここでドライブとフォルダを指定しファイル名をリストボックスからクリックで選択します。ツールバーの  をクリックしてもダイアログボックスが表示されます。「開く」ボタンをクリックすると、ファイルが開きます。(図 1)

図 1



### 注意!!

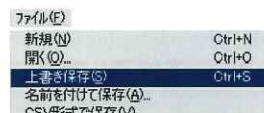
データ読み込み画面で、「読み取り専用ファイルとして開く (R)」をクリックし、チェックが入ると読み取り専用ファイルを開くことができますが、更新したファイルを保存することはできません。

### 直前に編集したファイルを開く

編集して保存したデータファイルは、【ファイル (F)】メニューに10個まで登録されます。メニューからデータファイルを選択して、データを開くことができます。

【ファイル (F)】メニューの【上書き保存 (S)】を選択もしくはツールバーの  をクリックすると作業中のファイルを保存します。(図 2)

図 2



### ファイル名をつけて保存する

既に保存したデータファイルの種類を変更したり編集した元ファイルとは別の名前で保存したり、フォルダを変更して保存することができます。


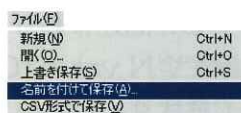
1. 【ファイル (F)】メニューから「名前を付けて保存 (A)」もしくは  を選択します。
2. 「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されます。「ファイル名」にファイル名を入力します。
3. 「保存」ボタンをクリックすると、新たにファイルを保存できます。

図 3

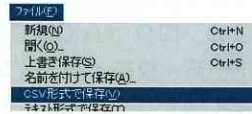




### CSV形式で保存する

【ファイル (F)】メニューから「CSV形式で保存 (V)」を選択もしくは、 をクリックします。これでCSV形式保存ができます。CSV形式で保存するとエクセル、ロ-タスなどで再利用できます。(図4)

図 4



CSV形式で保存した後、定数を変更してもCSVで保存されたファイルに影響ありません。

### テキスト形式で保存する


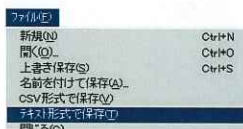
【ファイル (F)】メニューから「テキスト形式で保存 (T)」を選択もしくは、 をクリックします。これでテキスト形式保存ができます。ほかのエディタ、ワープロソフト等で再利用できます。(図5)

図 5



### ファイルを閉じる


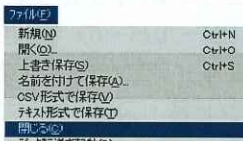

1. 【ファイル (F)】メニューから「閉じる (C)」を選択もしくは、ツールバーの  をクリックします。(図6)
2. AEM1-Dデータ処理プログラムを終了します。

図 6






### データ転送プログラムを起動する

ツールバーの  をクリックするとAEM1-Dデータ転送画面が開きます。このプログラムでは、計測器内のICメモリに収録されたデータをインターフェイスユニットによりRS232Cのフォーマットで外部コンピュータへ転送させます。


### データを廃棄する

ツールバーの  をクリックすると測定データと算出データをファイルに書き込まずに、メモリ上のデータを廃棄します。(注意)


### 注意!!

データの領域を確保されていなかった場合や測定データ領域あるいは算出データ領域にデータが存在し、かつそれらが未書き込みの場合は、測定データ廃棄処理を選択することはできません。

### データを復元する


ツールバーの  をクリックするとファイルに書き込まずに前項で廃棄した測定データと算出データ元のメモリ上に復元します。(Option)

### フォントの設定

【ファイル (F)】メニューの【フォントの指定 (F)】を選択もしくは、ツールバーの  をクリックするとフォントの指定ダイアログボックスが表示されます。ここでフォント名・スタイル・サイズ・文字飾りを指定します。(図 1)



### プリンタの設定

【ファイル (F)】メニューの【プリンタの設定】を選択もしくは、ツールバーの  をクリックするとプリンタ設定ができます。

#### 1. 「名前 (D) の設定」

- ・通常使うプリンタ (デフォルトのプリンタを現在のプリンタにします。)
- ・その他のプリンタ (特定のプリンタを現在のプリンタにします。希望のプリンタをリストボックスで選択します。)

#### 2 「印刷の向き」

・文書を縦長または、横長に印刷します。

#### 3. 「縦 (O)」

・用紙の短い辺を横切るようにテキストを印刷します。

#### 4. 「横 (A)」

・用紙の長い辺に沿ってテキストを印刷します。

#### 5. 「用紙の選択」

・用紙サイズ (Z) プリンタがサポートしている標準サイズを指定します。

・給紙方法 (S) プリンタの用紙トレイ方式または、用紙送り方式を指定します。

## データを印刷する


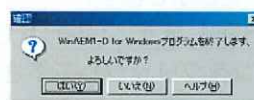
【ファイル (F)】メニューの【印刷 (P)】を選択もしくは、ツールバーの  をクリックすると印刷設定画面が出ます。プリンタ名・印刷範囲・印刷部数を指定し、「OK」をクリックするとデータを印刷します。(図 1)

図 1




## 終了する

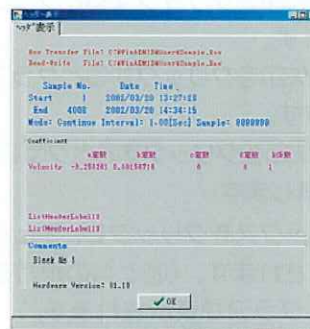
【ファイル (F)】メニューの【終了 (X)】を選択もしくは、ツールバーの  をクリックすると AEM1-D データ処理プログラムを終了します。




メッセージを確認し「はい」または「いいえ」をクリックして下さい。

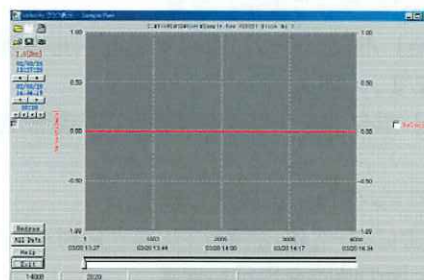
## ヘッダーを表示する

【表示 (V)】メニューの【終了 (X)】を選択もしくは、ツールバーの  をクリックします。ヘッダ情報には、現在のデータの情報が表示されます。(ファイル名・サンプルNo・日付・開始時間・終了時間・測定間隔・検定係数(a,b,c,d 値)・ファイルコメント)



## グラフの表示

View ボタンの  をクリックするとグラフが表示されます。メニューバーの【表示 (V)】の「第一グラフ表示 (O)」でも同じ操作ができます。



## グラフ説明 (図1)

①ファイルの場所 (I)、ファイルの種類 (T) をそれぞれ選択、またはダイレクトにファイル名をファイル (T) にインプットし「開く (O)」を押すと指定したファイルが開きます。デフォルトのファイルの種類は拡張子 .Raw 又は AEM1D です。ファイル Open 表示ボタンをクリックすると、ファイルを開くためのデータ読み込み画面が表示されます。

②第一又は第二グラフを表示します。

③作業中のグラフを印刷します。(キャンセルの場合はキャンセルボタンをクリックして下さい。)

④保存されているグラフを開くことができます。

⑤グラフに名前を付けて保存する事ができます。

⑥グラフをビットマップ形式で保存することができます。

⑦スクロール矢印をクリックするとグラフの開始時間を増減します。

⑧スクロール矢印をクリックするとグラフの終了時間を増減します。

⑨スクロール矢印をクリックするとグラフの開始・終了 Day を増減します。

⑩チェックボックスをクリックし、チェックするとグラフが表示されます。(⑩と⑳の両方をクリックすると上下にグラフが表示されます。)

⑪ [Redraw] ボタンをクリックすると最新の作画条件に基づいて、グラフを再作画します。

⑫ [All Data] ボタンをクリックすると全てのサンプルデータをグラフ表示します。

⑬ [Help] ボタンをクリックするとヘルプ画面を表示します。

⑭ [Exit] ボタンをクリックするとこの画面を終了します。

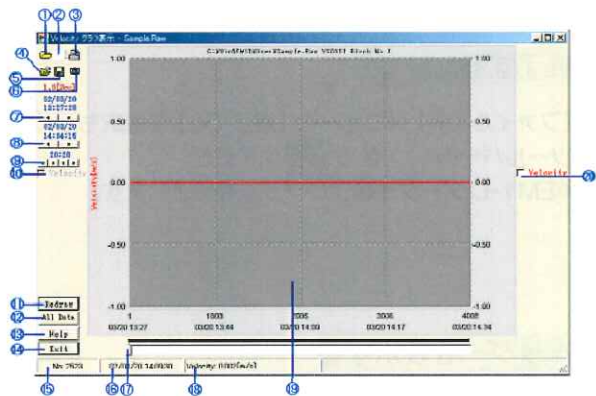
⑮サンプリング No. を表示します。

⑯グラフ上にカーソルを持っていくと日付・ポイントしている所の時間を表示します。

⑰スクロールボックスをドラッグするとデータ範囲の高速移動できます。またスクロールボックス上を右クリックするとショートカットメニューがでます。ここで測定間隔を選択することができます。

⑱グラフ上にカーソルを持っていくとポイントしている所の値を表示します。

図 1





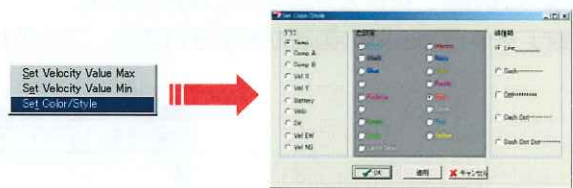
<前ページ図1つづき...>

⑩グラフ上を右クリックすると現在表示されているデータの最大値・最小値・色/スタイルを設定することができます。

最大値・最小値の場合、指定する項目の上をクリックし、数値を入力後「OK」ボタンを押すと設定することができます。



グラフの色/スタイルを設定する場合はSet Color/Styleの項目をクリックし、変更するグラフの色設定・線種類を選び各それぞれにチェックマークを入れ「OK」ボタンを押すと色・線を変更することができます。



⑪チェックボックスをクリックし、チェックするとグラフが表示されます。(⑩と⑪の両方をクリックすると上下にグラフが表示されます。)

ツールバーを表示する

【表示 (V)】メニューの【ツールバー表示 (T)】サブメニューをクリックするとチェックボックスがオンになりツールバーが表示されます。チェックボックスをもう一度クリックするとツールバーは非表示になります。

パラメータを設定する






【ツール (T)】メニューの【パラメータ設定 (P)】を選択もしくは、ツールバーの をクリックすると係数設定画面が表示されます。(図1)

図 1



この画面で各 channel の検定定数登録・更新を行います。  
 計算値 (水温・伝導度・深度・照度など) = a + bx + c x<sup>2</sup> + dx<sup>3</sup>  
 生データ x (つまり N 値) は、計測器によって違います。  
 MDS-T,C,D の場合、n=0~255 (8ビット分解能)  
 MDS-CT,TD の場合、n=0~4095 (12ビット分解能)  
 K 係数は、単位を変更する場合に使用します。  
 例えば、深度単位 m から inch に表示するには K=39.37 を入力します。

### <各種ボタンの説明>

-  読込 ... 係数ファイルより係数を読み込みます。
  印刷 ... 係数ファイルより係数を印刷します。
-  保存 ... 係数ファイルに設定係数を保存します。
  ヘルプ(H) ... ヘルプを表示します。
-  削除 ... 係数ファイルより設定係数を削除します。

 FD Save ... 定数を外部FDに保存します。

係数データFDsaveの画面が表示されます。ファイル名を指定し「保存」するとFDに定数が保存されます。



 FD Read ... 外部のFDの係数ファイルよりデータを登録します。

係数データ読み込みの画面が表示されます。そこで〇〇〇.Cofファイルを開きます。






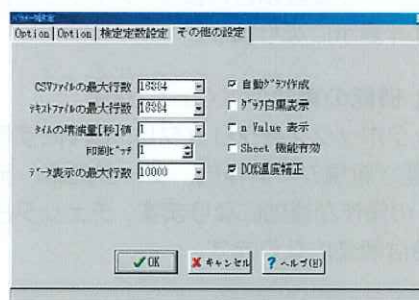
**注意!!**

ただし、AEM1-Dデータが確保されていなかった場合は、係数設定処理を選択することができません。またメモリパックデータにデータが存在し、かつこれらのデータが未書き込みの場合も、係数設定処理を選択することができません。

**その他の設定をする**

【ツール (T)】メニューの【パラメータ設定 (P)】を選択し、「書込ファイル設定」タグをクリックします。もしくは、ツールバーの  をクリックすると係数設定画面が表示されます。

CSVファイルの最大行数、テキストファイルの最大行数、タイムの増減量[秒] の値をダイレクトに入力するかプルダウンキーで数を増減させても書込みファイルの条件ファイルに設定できます。

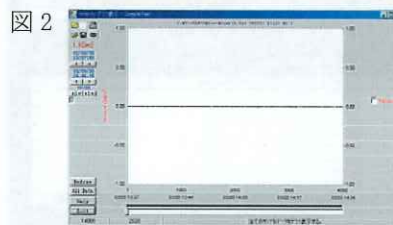
**<自動グラフ作成>**

この項目のチェックボックスをオンにするとファイルオープン時に自動的にグラフを作画します。

**<白黒グラフの表示 / 印刷>**

グラフの白黒表示のボックスをクリックしチェックが入るとファイルオープン時にグラフが白黒で表示されます。(図 2)

(注：この設定をする時はいったんグラフを終了させてから行って下さい。)



 をクリックするとグラフが白黒で印刷されます。

**<印字ピッチの設定>**

スクロール矢印を増減するか数字を直接入力で変更するとその設定した間隔で印刷されます。

(例えば 20 に設定すると、「No.1,21,41,61,81,...」のデータが印刷されます。)



### <スクロール間隔の調整>

「タイムの増減量（秒）値」

データ一覧をロールアップ、ダウンさせる時のスクロール間隔をここで調整することができます。一覧表のスクロールバーをポイントし右クリックしても間隔変更ができます。

### <N Value の表示> (Option)

このチェックボックスをクリックし、ONにするとN Valueのデータが表示されます。チェックされていない時は非表示になります。

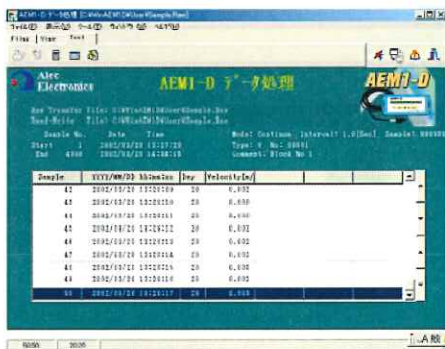
### <Sheet 機能の有効> (Option)

このチェックボックスをクリックし、ONにするとSheet 機能（新規シート作成、データ廃棄、データ復元等）の操作が有効になります。チェックされていない時は無効になります。

### <データ表示の最大行数>

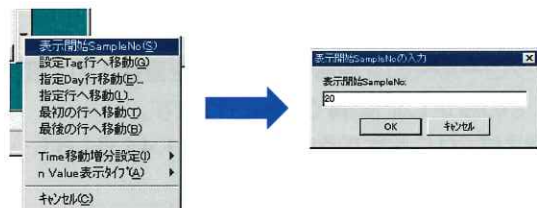
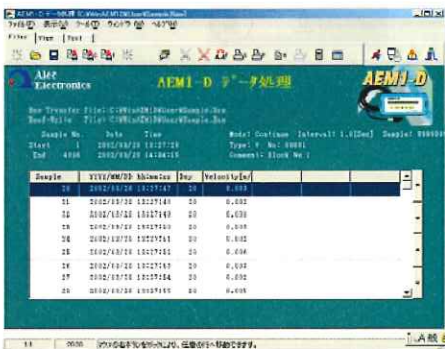
データリスト画面の最大行数を設定することができます。

データ表示の最大行数 50



### \*表示開始Sample No.の設定

スクロール矢印の上を右クリックするとデータの表示開始 Sample No の設定をすることができます。



## ハードコピーをとる

【ツール (T)】メニューの【ハードコピー (H)】を選択すると現在表示されている画面のみ印刷されます。

(Shift + Ctrl + Hでもハードコピーができます。)

## システムの設定をする

【ツール (T)】メニューの【システム設定 (S)】を選択するとシステムパラメータの設定画面が開きます。(図 1)

項目 ..... 項目名称 / 項目単位 / 表示フォーマット / 入力フォーマット

Sec... 測定間隔

係数... 検定定数

InstNo... 測器番号 (製造番号)

項目名称、項目単位、項目の桁数等を設定入力し「OK」を押すと設定できます。(ロールバーで項目の選択もできます。)

図 1




## すべてをアイコン化する

【ウィンドウ (W)】メニューの【すべてをアイコン化 (M)】を選択するとウィンドウを最小化します。(タスクバーの何も無い部分を右クリックしても「全ウィンドウを最小化」選択画面が開きます。)

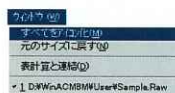
## 元のサイズに戻す

ウィンドウを元の状態に戻すには、タスクバーの何も無い部分を右クリックし「元のサイズに戻す」をクリックします。

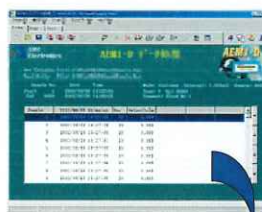
## 表計算と連結させる

<DDE (Dynamic Data Exchange) 連結をする>  
【ウィンドウ (W)】メニューの【表計算と連結 (D)】を選択もしくは、ツールバーの  をクリックすると Microsoft Excel (Excel97 以上であること) とダイナミックデータ交換機能を使用してメモリパックデータファイルを読み込みながら Excel シートにこのデータを同時に移行させることができます。

- ◆ AEM1D ファイルを起動する前に Excel を起動し、Excel 上で "AEM1DDDE.XLS" ファイルを開く。
- ◆ 高速操作設定ボタンと DDE 連結ボタンをクリックする。
- ◆ WinAEM1D 上で選択したファイルを開く。
- ◆ 中止するには、DDE 連結ボタンをクリックする。



注:ダイアログボックスは最小化されません。最小化したウィンドウを開くには、タスクバーのボタンをクリックします。






### 目次項目をキーワードで検索する

【ヘルプ (H)】メニューの「キーワードで検索 (T)」を選択するとキーワード画面が開きます。キーワードをクリックし表示を押すと説明画面が出ます。


### ヘルプの使い方

【ヘルプ (H)】メニューの「ヘルプの使い方 (H)」を選択するとトピックの検索Windowsのヘルプ画面が開きます。

### ヘルプを見る

【ヘルプ (H)】メニューの「目次 (C)」を選択すると目次画面が開き各項目の説明を見ることができます。(Ctrl + Hまたは、 をクリックで目次画面を開くことができます。)

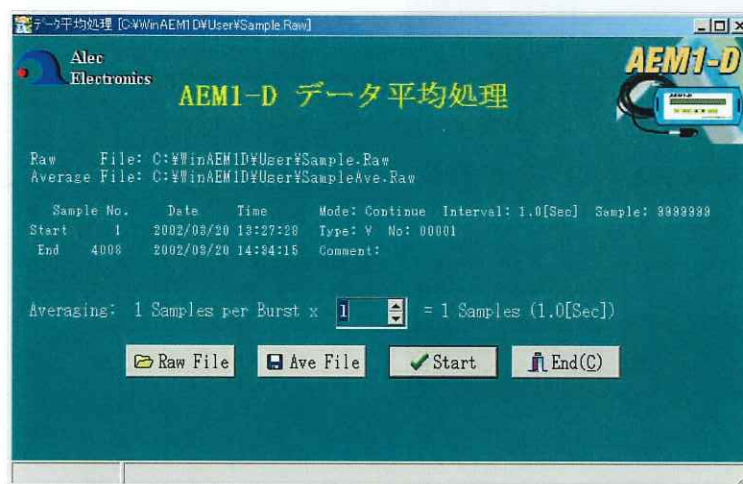
### 高速操作設定

ツールバーの  をクリックすると高速操作モードになり各種の確認メッセージなどの表示を省略し、選択された処理を実行します。





# AEM1-D データ平均処理プログラム



## プログラムの概要

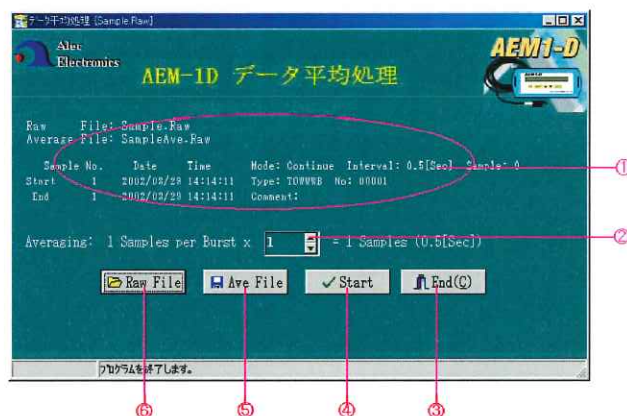
このプログラムは、RS-232C転送されたファイル (...Raw) 中の何データごとを平均処理によって1つのデータにまとめAverageファイルを作成します。作成されたAverageファイルは、「メモリーパックデータ処理」プログラムで開きます。

## 起動方法

スタートメニュー中のアイコン  をダブルクリックするかタスクバーのスタートよりWinAEM1D Data Process内の「WinAEM1D Average」をクリックして下さい。

りWinAEM1D Data Process内の「WinAEM1D Average」をクリックして下さい。

## 画面の説明



- ①処理されたファイル名、サンプルNo.、開始時間、終了時刻、Modeなどが表示されます。
- ②平均データ数を指定して平均処理を行います。
- ③プログラムを終了します。
- ④平均ファイルを作成します。
- ⑤平均ファイル名を指定します。
- ⑥入力ファイル名を指定します。

<操作方法>

1. **Raw File** をクリックし、入力ファイル名を指定し、読み込みます。



2. 下図の○のスクロール矢印で1バーストデータ数の倍数を1つの平均データにします。

Averaging: 1 Samples per Burst x **1** = 1 Samples (1.0[Sec])

3. **Ave File** をクリックし、平均ファイル名を付け「保存」し、作成します。



4. **Start** をクリックします。平均ファイル作成処理を開始します。

\* ここで作成された平均ファイルは「データ処理プログラムで読み込むことができます。

○○○Ave.raw



*WinAEM1D*  
データ処理プログラム

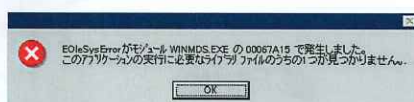


## Trouble Shooting ～トラブルシューティング～

### ①測器とデータ通信ができない！

測器とデータ通信が出来ない場合、Regist登録がされていない場合がありますので下記の手順でお使いのPCに合わせて行って下さい。

・Registが出来ていない場合、下記のエラーが表示されます。

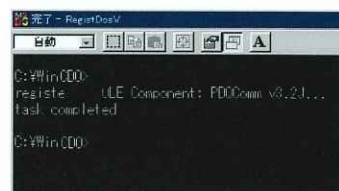


1) .DOS/V の場合 (WIN ※※※はお使いのプログラム名を入れてください)

エクスプローラを起動させます。

プログラム格納パターション内の、: ¥WIN ※※※ ¥REGSTDOSV. BAT をダブルクリックします。DOS プロンプト画面が表示され、

TaskCompleted の表示を確認してから全てのプログラムを終了させて下さい。パソコンを再起動して下さい。



2) . 注:Windows のフォルダがWINDOWS またはWINNT 以外であれば下記の手順で登録して下さい。(WIN ※※※はお使いのプログラム名です。) スタートメニューからMSDOS プロンプトを起動して下さい。

C:\WINDOWS> が表示されたら cd. . を入力して下さい。cd WIN ※※※を入力して下さい。

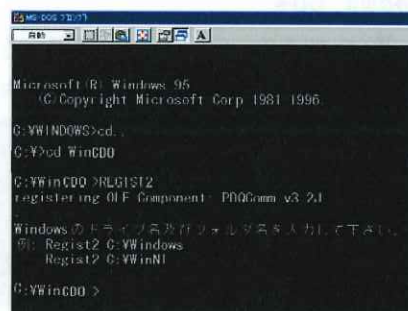
REGIST2 を入力して下さい。

案内通りに入力して下さい。つまり、

Regist2\*\*\*\*\* を入力して下さい。\*\*\*\*\* は、ドライブ名及びフォルダ名を入力して下さい。(例えばRegist2C:\WINNT32)

EXIT を入力してWindows 戻します。

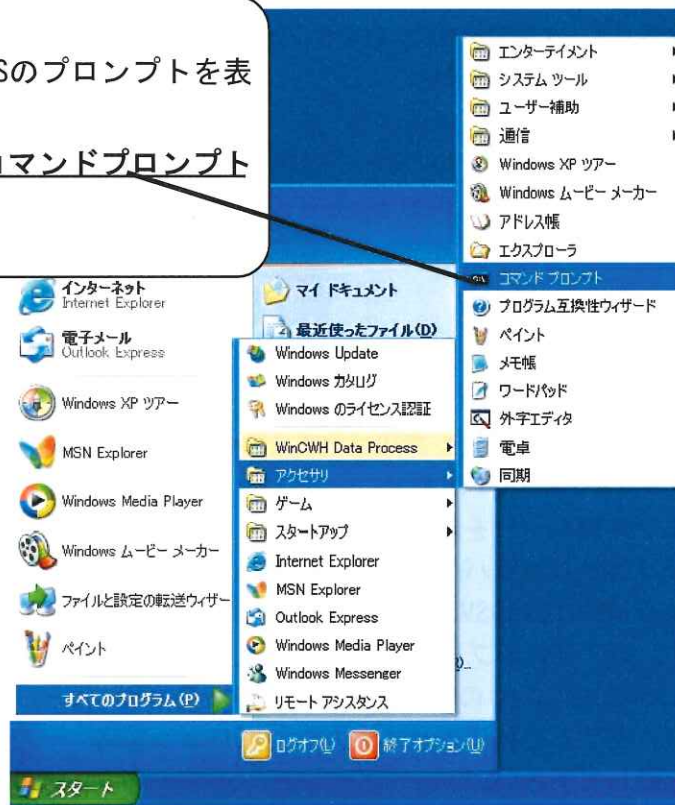
電源を OFF にして、パソコンを再起動して下さい。



### 3) WindowsXP の場合



Windowsのスタートボタンを押しDOSのプロンプトを表示させます。  
全てのプログラム—アクセサリ—コマンドプロンプトをクリックします。



DOSのコマンドプロンプトをクリックすると以下の画面が表示されます。

この画面により、インストールフォルダに移行します。

まず、ルートに移動し、コマンドラインより以下のコマンドを入力して下さい。

コマンドラインより

```
C:¥windows>CD¥
```

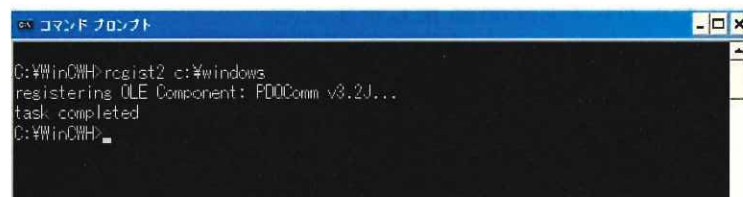
```
C:¥>CD Win * * * (* * *には使用するプログラム名を入れてください。)
```

```
C:¥Win * * * >Regist2 C:¥windows
```



Regist2 C:¥windows をコマンドラインから入力すると、以下の画面が表示されます。


Task completedが表示されて終了となります。



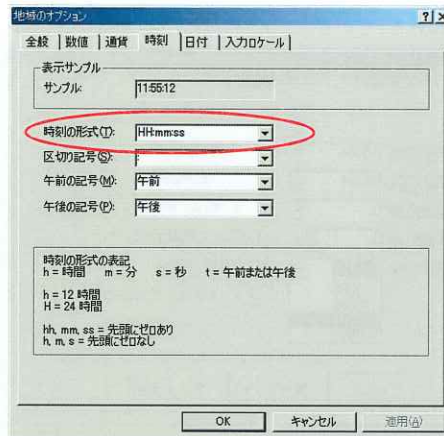
## ②カレンダー設定画面について

必ずお使いのPCのカレンダー設定は時刻の形式は「HH:mm:ss」、日付の形式は「yyyy/MM/dd」にして下さい。

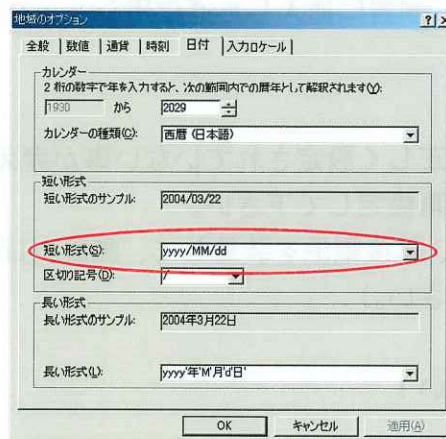
### <設定方法>

タスクバーの「スタート」より【設定 (S)】→【コントロールパネル (C)】を選びます。  
そのなかの  を起動します。

・時刻タブを選んで「時刻の形式 (I)」のところで「HH:mm:ss」を選び【適用 (A)】をクリックします。



・日付タブを選んで「短い形式 (S)」のところで「yyyy/MM/dd」を選び【適用 (A)】をクリックします。



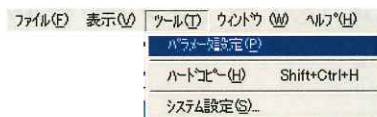
時刻、日付ともに設定したら【OK】をクリックし設定完了です。



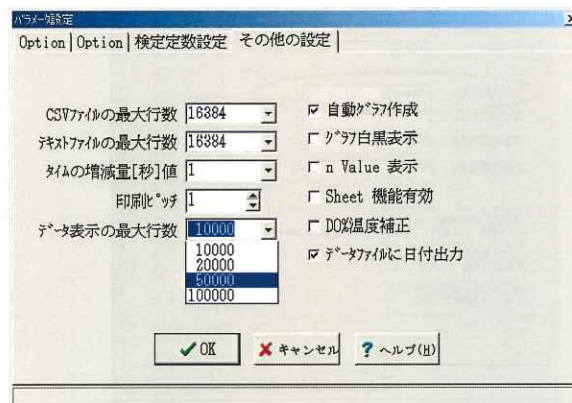
③ 10,000 データしか見れない

PCのメモリをできるだけ有効に使用する為、出荷時は10,000で設定されていますが必要であれば下記の方法で変更を行って下さい。

データ処理プログラム画面のメニューより「ツール」→「パラメータ設定」を選びます。



次に「その他の設定」タブをクリックし「データ表示の最大行数」よりご希望の数へ変更して下さい。



変更したら【OK】をクリックして下さい。

④ 測器とデータ通信ができず、測器に挿入した通信用ジャックを外しても測器の

LEDが点灯しっぱなし！

原因

測器のカレンダー情報が正しく設定されていない事が考えられます。

測器のカレンダー情報を再設定して下さい。

(測器の電池を一旦外し、再度電池を装着して、測器のLEDが消灯しているのを確認してから行って下さい。)

⑤ 測器とデータ通信ができない！

原因

弊社の英語版と日本語版のwindowsソフトが、お使いのパソコンに、混在している事が考えられます。

日本語版OSには日本語版windowsソフト、英語版OSには英語版windowsソフトをインストールしてご使用下さい。



⑥ CSVファイル中の観測開始／終了が**1899/12/30**に！

データ数が0の場合、RAWファイルをCSV変換したときには、観測開始／終了がアプリケーションソフト内の規定値 “**1899/12/30**” になります。

※上記規定値になるアプリケーションソフトは以下の通りです。

- ① WinAEM1-D
- ② WinC8L
- ③ WinCDO
- ④ WinCEM
- ⑤ WinCKU
- ⑥ WinCQ
- ⑦ WinCTQD
- ⑧ WinCWH


## WindowsVISTA で動作させる場合

1) UACが有効になっているかを確認してください。

V i s t a ではユーザーアカウントの管理機能が強化されている為、ユーザーアカウント制御 (UAC) をオフにした状態でアプリのインストールを行うと A c t i v e X 等の記録が正常に行われなため、インストールに失敗します。上記の理由から、アプリのインストール時には必ずUACをオンにする必要があります。

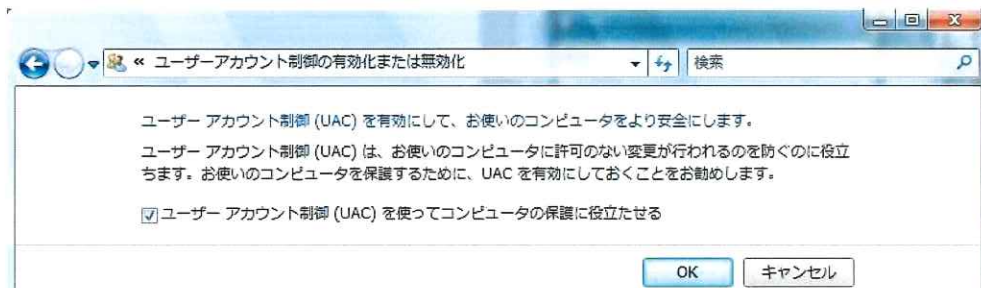
UACをオンにする方法

1. スタート→コントロールパネル→ユーザアカウントと選択
2. 「ユーザーアカウント制御の有効化または無効化」をクリック

 [別のアカウントの管理](#)

 [ユーザーアカウント制御の有効化または無効化](#)

3. 「ユーザーアカウント制御を (UAC) を使ってコンピュータの保護に役立たせる」のチェックボックスをオン



4. 「OK」をクリックしコンピュータを再起動

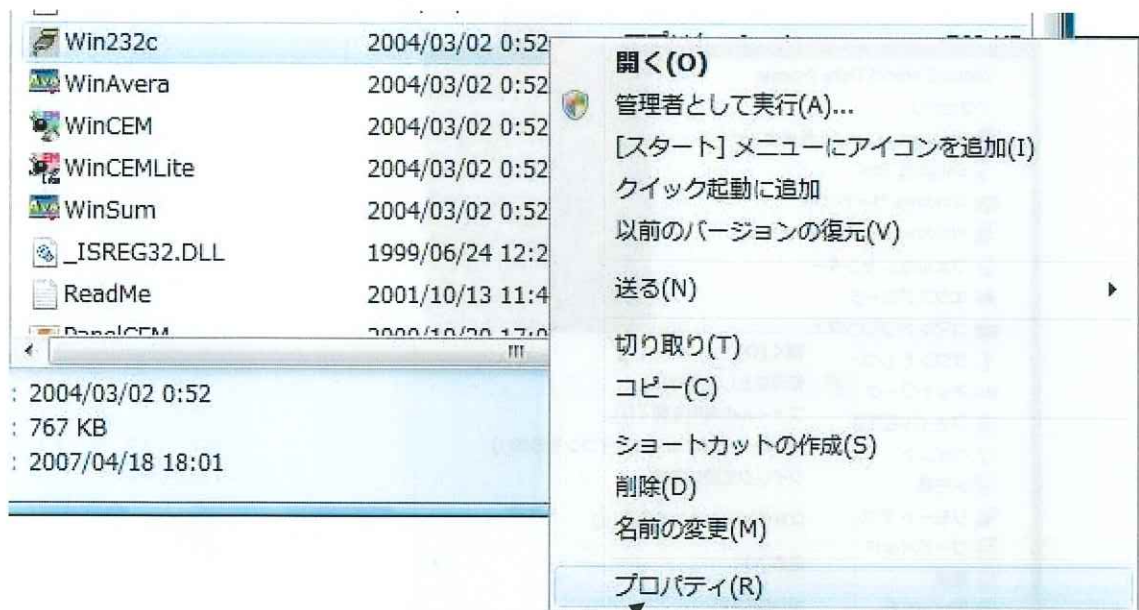
以上の方法でUACをオンにした後にインストールを行うと正常にインストール出来ます。

インストールされたソフトのショートカットにはセキュリティマークが付きます。

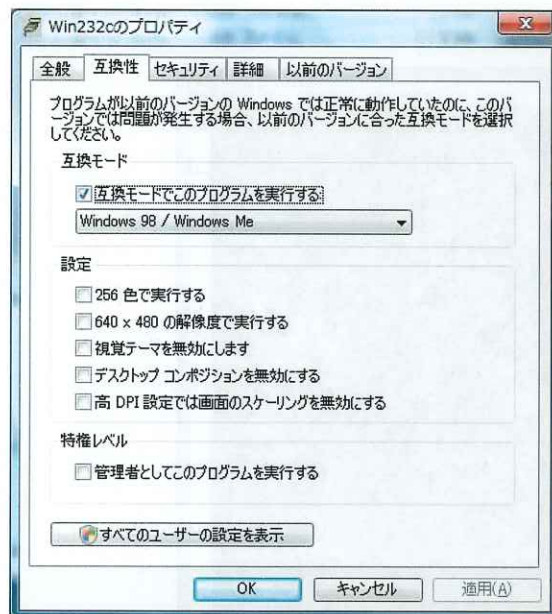
2) RS 2 3 2 C. EXEの互換モードへの設定

Explore を起動し、インストールフォルダを開きます

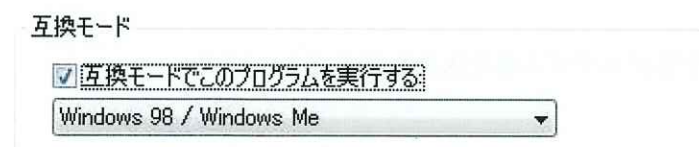
インストールフォルダ内の、RS 2 3 2 C. EXE上で右クリックします



右クリックするとドロップダウンし、プロパティを選択します



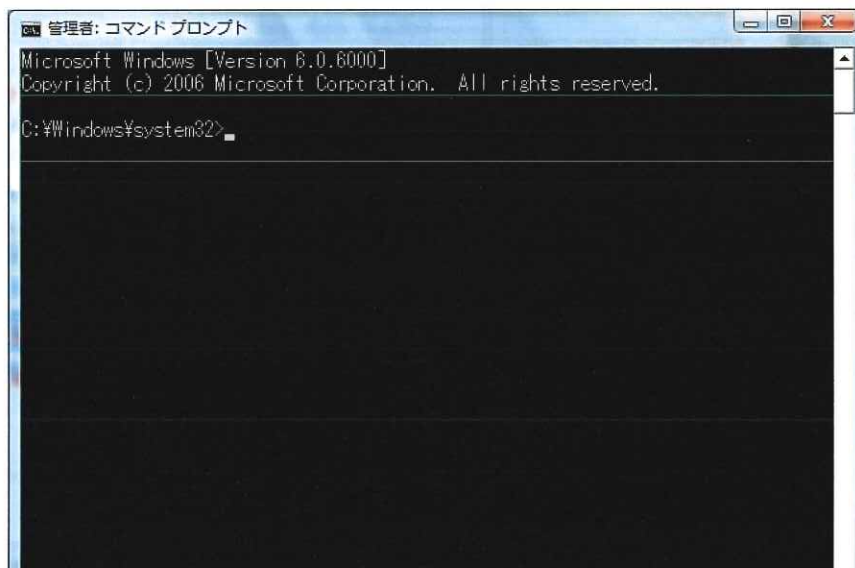
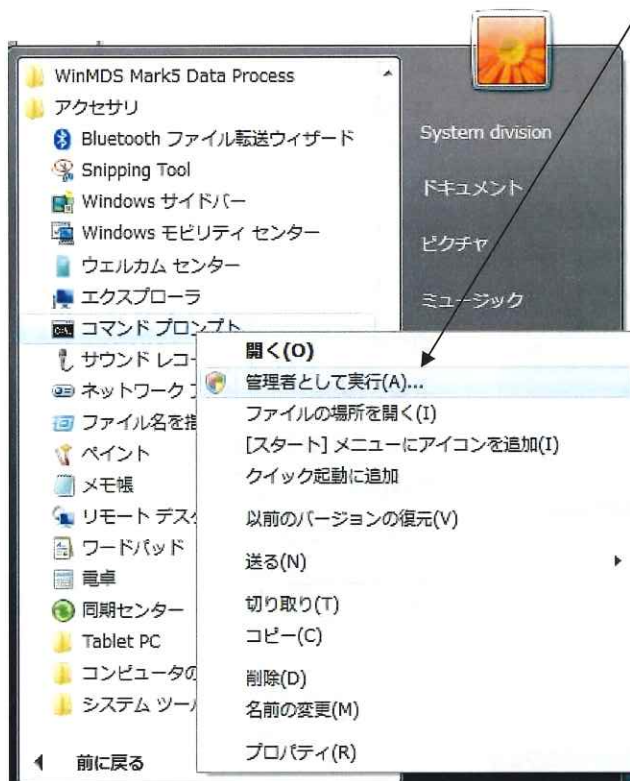
互換性タブをクリックし、以下の表示通りに設定してください。



設定後はOKを押してください。

### 3) レジストリ登録

アクセサリから、コマンドプロンプトを開きますが、管理者として実行を選択します



コマンドプロンプト上で、

CD ¥

CD Win×× (××は、使用するプログラム名を入力してください)

Regist2 C:¥windows

Task Completed が表示されると完了となります。







取A-0101-01



**JFE アドバンテック 株式会社**

海洋・河川事業部

本 社 〒663-8202 兵庫県西宮市高畑町3-48

TEL 0798-66-1783 FAX 0798-66-1654

東 京 本 社 〒111-0051 東京都台東区蔵前2-17-4 JFE蔵前ビル 2F

TEL 03-5825-5589 FAX 03-5825-5591

東 北 支 店 〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-3-1 TMビル 2F

TEL 022-711-7535 FAX 022-711-7534

URL : <http://www.jfe-advantech.co.jp/>

E-mail : [ocean@jfe-advantech.co.jp](mailto:ocean@jfe-advantech.co.jp)

---